

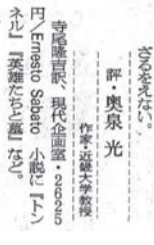
現代企画室 書評の葉

2010 年版

【作】家とその亡霊たち 朝日新聞 2009年6月7日掲載
エルネスト・サバト著 寺尾隆吉訳 (定価2500円+税)



【作家とその亡霊たち】
著者のエルネスト・サバトは、1911年生まれ、1972年に没した作家。代表作に『作家とその亡霊たち』、『カタルシス』、『アルセオ』などがある。本書は、作家の死後、その魂がどのようにして現世に現れるか、そして作家の創作活動にどのような影響を与えるか、というテーマを扱っている。サバトは、作家の死後、その魂が現世に現れることによって、作家の創作活動に大きな影響を与えることを信じていた。本書は、その信じていたことを示している。



小説考えるヒント連なる140編
編集 大塚三郎
現代企画室 (定価1600円+税)

本書は、小説の書き方について、140のヒントをまとめた一冊。初心者から上級者まで、幅広い読者に読んでほしい。ヒントは、小説の書き方、構成、登場人物の描写、台詞の書き方、視点のとり方など、さまざまな観点から提供されている。また、各ヒントには、具体的な例や練習問題が添えられている。

【崩壊】読売新聞 2010年2月14日掲載
オラシオ・カステジャーノス・モヤ著 寺尾隆吉訳 (定価2000円+税)



【悲惨な日々 生きる人々】
Horacio Castellano Moya 著
寺尾隆吉訳 (定価2000円+税)

本書は、 honduras の内戦後の状況を描いた小説。社会の崩壊、貧困、暴力の蔓延が描かれている。主人公は、内戦の犠牲者となった人々の中で生きる姿が描かれている。著者は、社会の崩壊がもたらす人々の苦しみと、生き残るための努力を描いている。

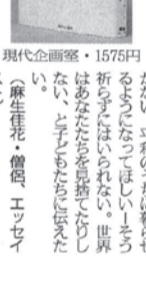
【占領ノート】中国新聞、新潟日報ほか (共同通信配信)
2009年1月～2月掲載 エリック・アザン著 益岡賢訳 (定価1500円+税)



【占領ノート】
Erick Assandj 著
益岡賢訳 (定価1500円+税)

本書は、パレスチナの生活を描いたノンフィクション。占領下の生活の厳しさと、人々の苦しみと希望が描かれている。著者は、パレスチナの現状を詳しく説明し、人々の生活の様子を詳しく描いている。

パレスチナ苦悩の生活
現代企画室 (定価1575円)



【アフガンの子 忘れられない戦争の傷映画で訴え】
Mafarrah Mawjidi 著
現代企画室 (定価1575円)

本書は、アフガンの戦争を描いた映画のシーンと、その背景を詳しく説明している。戦争の残酷さと、人々の苦しみと希望が描かれている。著者は、戦争がもたらす人々の苦しみと、生き残るための努力を描いている。



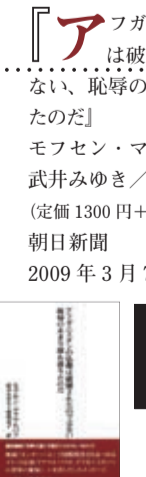
【サヨナラ 自ら結婚となった少女】
Raula Restrepo 著
松本楚子訳 (定価3000円+税)

本書は、少女が自ら結婚するに至るまでの経緯を描いた小説。少女の苦しみと希望が描かれている。著者は、少女の苦しみと希望を描いている。



【アフガニスタンの伝像】
Mafarrah Mawjidi 著
武井みゆき・渡部良子訳 (定価1300円+税)

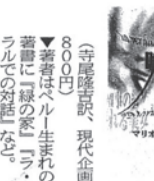
本書は、アフガニスタンの歴史と文化を描いた一冊。アフガニスタンの現状と、人々の生活の様子を詳しく描いている。



【映画「子どもの情景」原案!】
Mitsuru Ōkubo 著
現代企画室 (定価3150円)

本書は、映画「子どもの情景」の原案を描いた小説。子どもの苦しみと希望が描かれている。著者は、子どもの苦しみと希望を描いている。

【嘘から出たまこと】
日本経済新聞 2010年3月28日掲載
マリオ・バルガス・ジョサ著 寺尾隆吉訳 (定価2800円+税)



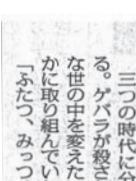
【嘘から出たまこと】
Mario Vargas Llosa 著
寺尾隆吉訳 (定価2800円+税)

本書は、作家の死後、その魂が現世に現れることを描いた小説。作家の苦しみと希望が描かれている。著者は、作家の苦しみと希望を描いている。

世界の小説を読む作家の情熱

作家は政治の代議にもなっている。世界の小説を読む作家の情熱について、寺尾隆吉氏が語る。作家の情熱が、世界の小説を通じてどのように表現されているかについて、詳しく説明している。

【チェゲバラ・プレイバック】
毎日新聞 2009年3月15日掲載
太田昌国著 (定価1600円+税)



【チェゲバラ・プレイバック】
Masamichi Ōta 著
現代企画室 (定価1600円+税)

本書は、チェゲバラの伝記を描いた一冊。チェゲバラの苦しみと希望が描かれている。著者は、チェゲバラの苦しみと希望を描いている。

水と火

【水と火】
ジャン＝リュック・ナンシー著
吉田晴海訳 (定価2200円+税)

本書は、水と火の対比を通じて、人間の存在と意識について考察している。著者は、水と火の対比を通じて、人間の存在と意識について詳しく説明している。



【脱 閉域 キリスト教の脱構築1】
ジャン＝リュック・ナンシー著
大西雅一郎訳 (定価3300円+税)

本書は、キリスト教の脱構築について考察している。著者は、キリスト教の脱構築について詳しく説明している。

【脱 閉域 キリスト教の脱構築1】
ジャン＝リュック・ナンシー著
大西雅一郎訳 (定価3300円+税)

本書は、キリスト教の脱構築について考察している。著者は、キリスト教の脱構築について詳しく説明している。

哲学の最前線の成果

【哲学の最前線の成果】
澤田直著
現代企画室 (定価3465円)

本書は、現代哲学の最前線の成果について考察している。著者は、現代哲学の最前線の成果について詳しく説明している。

サーカスに逢いたい

【サーカスに逢いたい】
田中未知子著
クリストフ・フレンド・ラージュ
現代企画室 (定価2400円+税)

本書は、サーカスの世界を描いた小説。サーカスの苦しみと希望が描かれている。著者は、サーカスの苦しみと希望を描いている。

【サヨナラ】
Raula Restrepo 著
松本楚子訳 (定価3000円+税)

本書は、少女が自ら結婚するに至るまでの経緯を描いた小説。少女の苦しみと希望が描かれている。著者は、少女の苦しみと希望を描いている。

サーカスに逢いたい

【サーカスに逢いたい】
田中未知子著
クリストフ・フレンド・ラージュ
現代企画室 (定価2400円+税)

本書は、サーカスの世界を描いた小説。サーカスの苦しみと希望が描かれている。著者は、サーカスの苦しみと希望を描いている。

サーカスに逢いたい

【サーカスに逢いたい】
田中未知子著
クリストフ・フレンド・ラージュ
現代企画室 (定価2400円+税)

本書は、サーカスの世界を描いた小説。サーカスの苦しみと希望が描かれている。著者は、サーカスの苦しみと希望を描いている。

【サーカスに逢いたい】
田中未知子著
クリストフ・フレンド・ラージュ
現代企画室 (定価2400円+税)

本書は、サーカスの世界を描いた小説。サーカスの苦しみと希望が描かれている。著者は、サーカスの苦しみと希望を描いている。

《子どもをめぐる本》

『娘』 子どもと話す』シリーズ全17タイトル好評発売中!
(定価 1000円～1300円+税)

子どもは、あどけなくも鋭く、世の中の難問について質問する。大人はうろたえ、逃げまどい、しかしついには真剣に答える。フランスで大好評のシリーズの翻訳に、オリジナル版も加わってさらに充実。子どものための、刺激的な思考のレッスン! 非暴力/国家のしくみ/宗教/人道援助/イスラーム/アウシュヴィッツ/左翼/科学/哲学/地球環境問題/言葉/不正義/民族問題/文化/文学/メディア/宇宙など、親子の対話を通して現代社会に重要なテーマを考える。



湯川 豊 評

人生に大切なことはすべて絵本から教わった

末盛千枝子著(現代企画室 2100円)

末盛千枝子氏は四十五年にも及ぶという、長い経歴をもつ絵本編集者である。二つの絵本出版社を経て、一九八八年に独立し「すえもりブックス」を設立。絵本の編集とすじでやってきた。若いころNHKのディレクターだった夫が突然死し、二人の男の子をかかえて編集者をやった、というように個人的な軌跡も折に折に語られてはいるが、これは単純な回想記ではない。では、この本の魅力はどこにあるか。

『人生に大切なことはすべて絵本から教わった』
毎日新聞 2010年5月9日掲載

末盛千枝子著 (定価 2000円+税)

「第一に、世界的な絵本作家たちの肖像と、その仕事の成果が、あざやかに語られていることだ。たとえば、日本でもファンが多い、アメリカのジャン・チャー・チャー。一九九一年、担当編集者に連れられてパーモントの森の中に住むジャン・チャー・チャーに会いに行く。ニューヨークから七時間のドライブで夜遅く深い森の中に着く。

祈りを込め 編んできた半世紀

次の日の早朝、起きたらみるみるうちに庭に出て働いていて、それも着た。朝食には採集した木の葉が次から次へと出てくる。ジャン・チャーは七十五歳すぎ。長年、畑仕事をしながらコックと職人のように絵を描きつづけて四人の子を育てた夫とは離婚。絵本が大ヒットしたとき、パーモントに三十万坪の土地を手に入れて住んだ。

「この本には随分と『ヒアノ調律師』の作家、M・B・ゴフスタインと初めて会ったとき、その風貌が彼女の描く絵本そのものじゃないか」と思ってしまう話は、つい笑ってしまふ。この本には随分と品のあるユーモアがあふれている。ゴフスタインの絵本の魅力は、「悲しみのひびが塗られている」といふ、この見方もなるほどと腑に落ちる。

「リパース・シティ」。「文明をひっくりかえす」という名前のこの作品を手掛けたのはカメルーン出身の芸術家、パスカル・マルティン・ユイさん(42)。ベルギーユイさんは、「鉛筆は自分にとっては権威の象徴でも何を感じるかは見る人次第だね」と話す。「大地の芸術祭」は3年に1度の国際芸術祭で、2000年から始まった。過去3回の芸術祭で発表された作品も数多く残り、4回目の今回は約1800の新作を含む約3700の作品が広大な土地に点在している。

彫刻家の舟越保武、弟の桂、直木の二人も彫刻家である。父の親友に若くして亡くなった作家の松本峻介がいるが、父の死後その年譜をついたとき、母の道子が「汽車賃の面がでず(松本の)葬式に参加できなかった」と一行書き足した。夏は夕暮れのみれ色の空を、父が「それは峻介の空だ」といって描いたと、心打つ挿話。いい絵本とは何か。きちんと希望があること。ハッピーエン

下ではないとしても、「悲しんでいる子どもをそばに立っていることが大切なことだ」と、作家の編者プロトウに言及しながら末盛氏はいう。絵本編集者の、長い体験と祈りがこもっている主張である。

本書はあるサークルの話がもとになっているが、きれいに整理されている。巻末に、本文で取りあげた絵本の全リストが掲載されているなど、行き届いた本づくりに好感をもった。

『子ども力』

井上暉堂著 (定価 1500円+税)

禅の達人が語る育児論。育てるのではなく、接することを旨とする子育てと人生の秘訣とは? MBA教師が説く、命かよいあう「真実の教育」論。



永六輔さんが本書を推薦! 「生命のなかに自らを育む力をみとめた独自の教育論であり、著者の起伏に富んだ経験に基づく卓抜した人生論でもある。子育てに奮闘するすべての親に一読を薦めたい」

《芸術・文化／大地の芸術祭関連の本》

『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2009』
非営利活動法人越後妻有里山協働機構 発行

(定価 3500円+税)

大地の芸術祭 2009 関連記事 日本経済新聞 2009年8月20日掲載

2000本以上もある巨大な鉛筆を模した木がとがった先端を地面に向かって突き出す。1本1本の鉛筆に書いてあるのは世界中の国の名前。教育や文明を連想する鉛筆が人間に課しているかのような迫力だ。



長さ2mの「鉛筆」が地上に立ち、奥に広がる大地の風景を映し出す。写真上、同右。写真下、同左。写真下、同左。写真下、同左。

『蛭子と傀儡子 旅芸人の物語』 絵=富山妙子、音楽=高橋悠治 (定価 2800円+税)
ふえみん No.2910 2009年12月15日掲載



「各時代の美がある。昔は美を高くし、音楽は次の時代のための豊かな産業となろう。捨てるところによって得るもの、ラジカルな存在でありたい。」(自伝『アジアを描く』より) 富山妙子の若いピシヨナ

70年代に韓国をテーマにした時から、国内での作品展覧はなくなり、海外の展覧会に集中していった。中世の詩人詩人や旅芸人のような旅をしながら、自ら旅芸人になるという理想を、音楽家の高橋悠治との芸術で、絵と音楽とを結びつける芸術としてスライド作品、朝鮮人強制連行、朝鮮人「慰安婦」などをテーマに、90年代には「20世紀のレクイエム・ハルビン」を制作した。

Gallery

富山妙子画集『蛭子と傀儡子 旅芸人の物語』

今号1面に登場した富山妙子さんの絵と高橋悠治さんの音楽によるコラボレーションがDVDで楽しめる画集。

蛭子(ひるこ)とは、「古事記」に出てくる神、傀儡子(くくづ)は人形舞りの旅芸人。蛭子伝説から、大航海時代、帝国主義、太平洋戦争、移民主義、9.11以降の世界までをテーマにした絵画に、音楽がつけられている。見る者の感性に訴え、想像力がかき立てられるDVDと画集だ。

絵/富山妙子 音楽/高橋悠治 訳/レベッカ・ジェニスン、頼田康子
価格 2800円(税抜き)
発行 現代企画室
TEL 03(3461)5082

アジアを描く画家 富山妙子さん Takako Fujimiyama

表現することがやつと自由になった

「日本の近代美術は西洋中心だった。それがよくよく変わり始めた」と、画家の富山妙子さんが言った。今年、新潟・越後妻有地域に開校した小学校で、アジアをテーマにした授業が展開された。国際的な大地の芸術祭、越後妻有アートトリエンナーレのメインイベント。韓国、戦争責任をテーマにした絵画展も、2000余の絵画作品が展示された。

富山妙子画集『蛭子と傀儡子 旅芸人の物語』

今号1面に登場した富山妙子さんの絵と高橋悠治さんの音楽によるコラボレーションがDVDで楽しめる画集。

蛭子(ひるこ)とは、「古事記」に出てくる神、傀儡子(くくづ)は人形舞りの旅芸人。蛭子伝説から、大航海時代、帝国主義、太平洋戦争、移民主義、9.11以降の世界までをテーマにした絵画に、音楽がつけられている。見る者の感性に訴え、想像力がかき立てられるDVDと画集だ。

絵/富山妙子 音楽/高橋悠治 訳/レベッカ・ジェニスン、頼田康子
価格 2800円(税抜き)
発行 現代企画室
TEL 03(3461)5082